

あわじ環境未来島構想 取組一覧

資料3-3

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容
1	エネルギーの持続 地域資源を活用した再生可能エネルギー創出	地域資源の価値を高める複合的なバイオマス利用の実証	○	「環境立島淡路」島民会議、県、島内3市他	全島	・資源循環型社会の構築に向けた取組である「あわじ菜の花エコプロジェクト」を島民運動として推進。 〔取組例〕 ・菜の花油販売促進事業 ・菜の花種子配布事業 ・生産者支援事業 等 〔H26年度実績〕 菜の花種子配布240kg、栽培面積45ha
2			○	浜田化学(株)	重点(五色)	・平成23年度は、農水省競争資金を活用し、酵素触媒法BDF製造に関するFS調査を実施し、平成24年度に実証プラントを設置した。 ・平成25年度以降、酵素触媒法BDF製造実証プラントの連続運転試験、得られる液体燃料のB5燃料化や長期使用試験等を実施している。
3			○	リマテック(株)	重点(五色)	・平成22～23年度にNEDOの競争的資金を活用し、大阪府立大学の指導を得てFSを実施した。 ・今後、実証プラントの設置に向けて、関係者と調整する。
4			○	(株)北海道マイクロエナジー	重点(五色)	・平成24年度に農水省競争資金を活用し、多様なバイオマス資源(竹チップ、刈草、街路樹剪定枝等)を一つの設備で熱分解、ガス化し、発電する技術の実証に向けたFS調査を実施した。 ・今後、実証プラント設置に向けた調整等を行う。
5			○	県	全島	・放置竹林資源循環利用事業 放置竹林の対策のため、NPO法人が島内一円から効率的に竹を収集し、竹粉(畜産飼料)、竹チップ堆肥や竹チップ(燃料)として加工・販売する活動を支援する。 ・竹取物語シニアサポーター「竹取の翁」活動体制整備事業 幅広い島民の参画により多面的に「あわじ竹取物語プロジェクト」を推進するため、竹取物語シニアサポーター「竹取の翁」が主体的に取り組む竹林の整備や竹林コンサートの開催、竹細工学習の実施、竹資源の利用などの活動を支援する。 ・放置竹林等整備支援事業 放置竹林や荒廃した広葉樹林の整備を推進するため、森林ボランティア団体による中型の樹木・竹粉砕機の導入を支援する。
6			○	洲本市	洲本市	・油糧作物の栽培収穫、搾油、食用油販売と、回収した廃食用油のBDF化という資源循環の取組を通じて、環境保全、農地保全、景観形成、特産品開発、エネルギー自給等による地域づくりを図る。 ・官民連携により、栽培面積や廃食用油回収量など、取組規模が年々拡大。(H20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例(農林水産省))。 〔H23年度実績〕 ・浜田化学(株)、神戸大学等と連携し、農林水産省補助金により、新技術である酵素触媒法によるバイオ燃料製造技術の技術実証を実施。 〔H24年度以降実績〕 ・プロジェクトの更なる拡大を図るため、菜の花等栽培技術向上、なたね油等販売促進及びBDF・B5燃料の活用拡大を図るための取組を実施。
7			○	淡路市	淡路市	・廃食用油の回収及びBDFの製造、利用化を図り、化石燃料に替わる代替え燃料として活用し、CO2の削減及び、地球温暖化防止につなげる。 ・精製油の利用は、現在、市の公用車(ダンプカー)に使用。 〔H26年度実績〕精製量 4,675ℓ 〔H27年度予定〕精製量 10,000ℓ
8			○	淡路市	淡路市	・A重油の価格高騰により、淡路市が誇る花き栽培に係る冬期の施設内暖房費用が大きな負担となっている。 ・初期暖房は、近年問題となっている竹を活用した竹チップボイラーによる熱循環を、温度調整は従来の重油を利用することで、暖房の効率化による経費の節減を図る。 ・竹チップの有効利用が実証できれば、花き生産以外にも広く展開し、化石燃料の使用削減、再生可能自然エネルギーの創出及び農業の活性化につなげる。 〔H24年度実績〕2箇所の実証実験 〔H26年度実績〕福祉施設1箇所で設置 〔H27年度予定〕花卉農業施設2箇所、家庭用ボイラー・ストーブ各3台
9			○	(株)東芝、(株)神戸製鋼所、慶應義塾大学	南あわじ市	・複数の再生可能エネルギーを組合せたバイナリ発電システムを開発する。風力発電の短周期の出力変動分を抑制する開発を行い、不安定な出力を平準化させるとともに、カットした変動電力を熱源に変え、太陽熱とバイオマスの熱エネルギー源と組み合わせ、バイナリ発電システムの熱源として利用することで、自然条件の変化にかかわらず安定した電力供給に加え、温水の供給も可能とする技術開発の実証を行う。 ・平成24～26年度の3カ年計画で「地球温暖化対策技術開発等事業」(環境省)に採択され、実証実験を実施した。

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容	
10		日本有数の潮流を活用した潮流発電の検討	○	三菱重工業(株)、県、淡路市	淡路市	・平成26年度から、環境省プロジェクトにて明石海峡の潮流を活用した潮流発電の技術開発と将来的な発電事業成立性の検証を目的に、実証実験の実施に向けた検討を行っている。 ・平成24年度に、明石海峡の実証実験候補海域において、潮流の実測調査を実施した。	
11	エネルギーの持続 地域資源を活用した再生可能エネルギー創出	良好な風況を生かした洋上・陸上風力発電所の検討	○	民間事業者、洲本市	重点(五色)	・風況が良好な淡路島西岸のポテンシャルを生かし、未利用地や海域における風力発電の実施可能性を検討する。 ・平成24年度は、洲本市五色町沖での事業化の可能性を探るため、風況シミュレーション調査を実施した。 ・平成26年度は、風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業(環境省)の対象地区に採択された。	
12				グリーンエネルギー推進のための風力発電施設設置支援	県	洲本市	・グリーンエネルギー推進の観点から、洲本総合庁舎屋上の風力発電施設をアスパ五色へ移設。
13		大規模な土取り跡地等の未利用地を活用した太陽光発電所の整備	大規模未利用地における民間大規模太陽光発電所の立地促進	○	(株)ユースエナジーホールディングス、(株)クリハラント、(株)淡路貴船太陽光発電所、塩屋土地(株)(その他複数の企業が検討中)	全島	・島内の土取り跡地等の大規模未利用地において、民間事業者が淡路地域の豊富な日照を生かして大規模太陽光発電事業の実施を支援する。 ・県、地元3市としては、事業者に対する用地情報の提供、関係機関との調整の仲介などの誘致活動を実施しており、総合特区支援利子補給金の活用に向けた調整等を行う。
14		家庭・事業所での太陽光発電の導入促進	電力供給サービス方式による太陽光発電設備の設置	○	エナジーバンクジャパン(株)、(株)スマートエナジー、県、市他	全島	平成25年5月に供用開始した県立淡路医療センターにエナジーバンクジャパン(株)が提供する初期投資不要で太陽光発電設備を整備する仕組み(ソーラーエコウェーブ)を導入した。 ・導入規模:150kW ・契約期間:12年間 ・導入効果:初期投資が不要、トータルコストの削減
15			住宅用太陽光発電設備設置補助事業		県、淡路島くにうみ協会、ひょうご環境創造協会	全島	・住宅において再生可能エネルギーである太陽光発電の導入を促進するため、新築住宅に比べ設置費が割高となる既築住宅を対象に設置費に対して補助。 [補助対象]淡路島内で住宅用太陽光発電設備を設置する者[H24年度補助額]1万円/kW ※H23年度は2万円/kW [H24年度実績]142件、769.0kW、7,689千円
16			住宅用太陽光発電設備設置補助事業		洲本市	洲本市	・地域のエネルギー自給率向上に向けて、地域の強みである豊富な日照量を生かした太陽光発電の導入を加速化するため、住宅用太陽光発電システム整備を補助。 [補助額]20千円/kW、上限80千円/件 (三洋電機製の太陽光発電システムを設置した場合:30千円/kW、上限120千円/件) [H26年度実績]助成件数61件(303.27kW)、補助金交付額5,687千円
17			住宅用太陽光発電設備設置補助事業		南あわじ市	南あわじ市	・地域のエネルギー自給率向上に向けて、地域の強みである豊富な日照量を生かした太陽光発電の導入を加速化するため、住宅用太陽光発電システム整備を補助。 [補助額]20千円/kW、上限80千円/件 [H24年度実績]108件、581.74kW、交付額:8,307千円 [H25年度実績]108件、583.76kW、交付額:8,417千円 [H26年度実績]48件、273.33kW、交付額:3,734千円 [H27年度予定]20千円/kW×4kW×100件=8,000千円
18		住宅用太陽光発電設備設置補助事業		淡路市	淡路市	・地域のエネルギー自給率向上に向けて、地域の強みである豊富な日照量を生かした太陽光発電の導入を加速化するため、住宅用太陽光発電システム整備を補助。 [補助額]20千円/kW、上限80千円/件(市内業者が工事した場合:25千円/kW、上限100千円/kW) [H26年度実績]57件 287.25kW 交付額:4,579千円 [H27年度予定]60件 240kW	
19		公共施設での新エネルギー率先導入		洲本市	洲本市	・環境市民ファンド、初期投資が不要な太陽光パネルの導入スキーム等の活用により、公共施設等へ太陽光パネルを率先して導入。 ・H24年度以降、初期投資不要スキームにより、学校給食センター、ウェルネスパーク五色、上灘中学校跡地等にて太陽光パネルを設置。	

番号	取組区分・概要	特区	取組主体	実施場所	事業内容
20	県内全域での幅広い産業立地の促進	県	県	全島	<p>・工場誘致中心の集積から県内全域での幅広い産業立地促進への転換を図ることにより、地域経済の活性化と雇用機会の創出を実現する。そのため産業集積条例を産業立地条例(仮称)に改正し、拠点地区制度の見直しなどを行うとともに、立地支援施策の新設・拡充等を行い、県内全域での幅広い産業立地を促進する。</p> <p>【主な支援策】</p> <p>①拠点地区制度の見直し 7種類から4種類に整理統合  ②税制上の措置、補助金の対象区域を拠点地区以外にも拡大  ③設備投資補助  ④雇用補助  ⑤本社機能立地支援(設備投資額の5%以内、賃料の1/2以内、正規雇用60万円/人等)  ⑥促進地域への事業活動立地支援(賃料の1/2以内、正規雇用60万円/人等)  ⑦不動産取得税軽減  ⑧法人事業税軽減</p>
21	あわじ環境未来島企業立地支援	県	県	淡路市	<p>① あわじ環境未来島構想支援割引制度  省エネルギー推進、地域ブランド発展、高齢者の生活向上等に寄与する企業の新規投資を促進する。  (1)対象用地 津名地区産業用地  (2)割引率 20%</p> <p>② 中小企業支援ゾーンの設置  島内中小企業の新規投資支援のため、特別に中小企業向け立地促進ゾーンを設置する。  (1)対象用地 津名地区(志筑)の小区画  (2)価格 15千円/㎡</p> <p>【実績】 1件</p>
22	地域資源を活用した再生可能エネルギー創出		洲本市	洲本市	<p>・投下固定資産額(家屋及び償却資産)が5,000万円以上で、事業所の新設、拡張又は移設を行う事業者へ奨励金を交付  【事業所を新設、拡張又は移設した場合】</p> <p>○企業誘致奨励金(5年間)  ・新設の場合:各年度の固定資産税額に相当する額  ・拡張の場合:拡張した部分に係る各年度の固定資産税額に相当する額  ・移設の場合:各年度の固定資産税額の1/2に相当する額  【指定事業所の操業開始時に新たに雇用された者で、1年以上継続して雇用された市内在住従業員がある場合】</p> <p>○雇用促進奨励金(上限1,000万円まで1回限り)  ・当該市内在住従業員1人につき30万円  【指定事業所の正規雇用従業員が10人以上で、市内在住従業員が半数を超え、かつ、新たに建築した事業所の床面積が1,000㎡を超える場合】</p> <p>○事業所施設設置奨励金(上限1,000万円まで1回限り)  ・1,000㎡を超える部分1㎡につき1万円</p>
23	家庭・事業所での太陽光発電の導入促進		南あわじ市	南あわじ市	<p>・投資額1億円以上もしくは常時使用従業員10人以上の企業を新設または拡張する事業者へ奨励金を交付(ただし、企業団地においては、5,000㎡以下の区画についても、投資額5,000万円以上または常時使用従業員5人以上で対象とする。)</p> <p>○土地取得奨励金(※企業団地(産業集積促進地区)のみ)  【新設】土地購入代金の2%相当額を3年間交付  【拡張】土地購入代金の1%相当額を3年間交付  ○土地取得特別奨励金(※企業団地(産業集積促進地区)のみ)  事業開始後2年以内において、南あわじ市在住の新規常用雇用従業員が10人以上50人未満の場合は1%を、50人以上の場合は4%を、人数に達した翌年度から3年間交付。  ○固定資産税課税免除(※企業団地は新設のみ)  ・該当部分の固定資産税相当額を免除。  【新設で新築施設】5年間  【新設で既存施設】3年間  【拡張で新築施設】5年間  【拡張で既存施設】3年間</p> <p>○新規常用雇用従業員奨励金(※企業団地は新設のみ)  ・南あわじ市在住者の新規雇用1名につき20万円(事業開始後3年以内、1,000万円限度)  ○特別新規常用雇用従業員奨励金の交付  事業開始後2年以内において、南あわじ市在住の新規常用雇用従業員が10人以上20人未満の場合は1,000万円を、20人以上30人未満の場合は3,000万円を、30人以上の場合は5,000万円を、人数に達した翌年度に交付。</p>

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容	
24		家庭・事業所での太陽光発電の導入促進	企業立地奨励制度	淡路市	淡路市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投資額1億円以上(ただし、市内企業に限り5,000万円以上)、かつ、市内在住の新たに常時雇用する従業員3人以上の企業が対象。</li> <li>○立地奨励金:固定資産税相当額を3~7年交付</li> <li>○雇用奨励金:新たに1年以上雇用した市内在住の従業員1人につき10万円(1回限り)を事業者に交付(3~5年間)。総額1,000万円限度</li> <li>○大橋通行助成・水道料金助成:明石海峡大橋及び大鳴門橋通行料並びに水道使用料の助成。法人市民税相当額を限度に3~5年間交付</li> <li>○下水道使用料助成:1立方メートルにつき50円を乗じた額を交付(30年以内で年間500万円限度)</li> <li>※対象となるのは指定業種のみ。投下固定資産総額、新たに常時雇用する市内在住の従業員数(なお、下水道使用料助成については、新たに5ヘクタール以上の土地を取得し、かつ、年間の下水道を使用する量が50,000立方メートルを超える者に限る)に応じて該当する奨励金・助成金の支給期間は異なる。</li> </ul>	
25	地域資源を活用した再生可能エネルギー創出	あわじ資源エネルギー化5か年計画の実施		県、市	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹資源活用エネルギー設備導入モニタリング事業</li> <li>竹資源活用エネルギー設備のうち花卉のハウス栽培等農業利用の竹チップボイラーは、これまで長期間の利用実績がなく、農業者が購入する際の参照データが不足しているため、モニター用竹チップボイラーの開発を委託し、農業者にモニター利用を促すことで、消費拡大への契機とする。</li> <li>・竹資源活用エネルギー設備導入補助</li> <li>竹資源活用エネルギー設備のうち家庭用竹チップボイラーや竹チップストーブの導入に対して補助することにより、竹の燃料としての消費拡大を図り、竹の資源としての活用を促進する。また、導入先のモニタリングを行い、使用状況について調査を行う。</li> <li>・竹資源活用エネルギー設備導入説明会及び現地見学会の開催</li> <li>竹の資源活用を促進するため、島内の放置竹林の現状や竹を資源として活用する取り組み及び補助制度を現地見学会を交えて紹介し、島民への普及啓発を図る。</li> </ul>	
26	地域でのエネルギー創出を支える仕組みづくり	住民参加型太陽光発電事業		○	(一財)淡路島くうみ協会、県	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの島民の参画を得て再生可能エネルギーの創出に取り組み、住民ぐるみであわじ環境未来島構想を推進する仕組みとして、県が住民参加型市場公募債を発行して島民を中心に資金を集め、(一財)淡路島くうみ協会に貸付を行い、同協会が太陽光発電事業を実施する。</li> </ul>
27	家庭・事業所でのエネルギー消費最適化	多様な主体の創意工夫を生かすエネルギー消費の最適化	うちエコ診断	○	ひょうご環境創造協会、地球環境戦略研究機関、エナジーバンクジャパン(株)、スマートエナジー(株)、県他	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭からのCO2排出量を見る化し、各家庭の生活スタイルに応じて、排出削減の効果的な対策を個別提案する「うちエコ診断」を展開。</li> <li>・H23年度からは、全県のモデルとして、淡路島において地元自治会・町内会と連携して地域ぐるみで実施。</li> <li>・診断の内容については、温暖化防止のほかに節電の観点も加え、充実を図る。</li> <li>※実績(H25 2地域18世帯、H26 2地域19世帯)</li> </ul>
28	エネルギーの持続	エネルギー自立と暮らしの安心・低炭素化マネジメントシステム	農漁村型スマートコミュニティづくりの推進	(調整中)	重点(五色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「仮想グリッドによるエネルギーマネジメントシステム(あわじAEMSプラットフォーム)」「エネルギー需給の見える化と暮らしの安心化(あわじライフアシスト・ターミナル)」「地域独自のエネルギー消費の最適化」により、従来の需要追従型ではなく、域内で生産可能な再生可能エネルギー創出量を地域住民、事業者自らが認識し、その範囲内で効率的に節エネ、融通(平準化)し合いながら域内エネルギーと生活の自立をめざす。</li> <li>・平成24年度は、洲本市五色町エリアの特色を生かした農山漁村型スマートコミュニティづくりを推進するため、地域住民等を対象とした意向調査を実施した。</li> <li>・今後は、趣旨に賛同する民間事業者の参画を得て、実証事業の実施に向けて国の競争的資金に応募していく。</li> </ul>	
29				京都大学、ソフトバンクモバイル(株)、東光電気(株)、国際航業(株)、洲本市、県他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度は、洲本市五色町を対象として、スマートコミュニティの構築を進めるためのFS調査事業である「スマートコミュニティ構想普及支援事業」(経済産業省)に採択され、事業を実施した。</li> </ul>	
30	エネルギー自立島	農漁村型スマートコミュニティづくりの推進		神戸大学、立命館大学、大阪市立大学、富士電機(株)、三社電機株、三洋電機株、中西金属工業(株)、慧通信技術工業(株)、県立工業技術センター、南あわじ市他	重点(沼島)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南あわじ市沼島は、太平洋に面して気候が温暖で日照量が豊富な一方、離島として東南海・南海地震などによる被害や孤立が懸念されている。このため、島民の意欲・知恵と先端技術を融合させながら、災害に強いエネルギー自給100%の島をめざす。</li> <li>・平成24~26年度の3カ年の「地球温暖化対策技術開発等事業」(環境省)に採択され、「離島・漁村における直流技術による自立分散エネルギー技術の実証研究」を実施し、当初の目標である電力消費量30%程度の削減効果を達成した。また、沼島に最適な直流マイクログリッドシステムの提示を行った。</li> <li>・今後、引き続き、立命館大学、慧通信技術工業により住民参加のダイナミックプライシングの実験を継続し、その有効性の検証を行なっていく。</li> </ul>	
31		LED街路灯新設事業		淡路市	淡路市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の交差点周辺、河川敷道路、路地、通学路等にLEDタイプの街路灯を順次整備し、省エネの推進を図る。</li> <li>[H26年度実績]161基</li> <li>[H27年度予定]120基</li> </ul>	
32		分散型エネルギーインフラ整備によるスマートコミュニティづくり		淡路市、県	重点(夢舞台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職と住の一体化によるコンパクトシティの実現を目指す淡路市夢舞台ニュータウン構想「サスティナブル・パーク」周辺をモデル地域として、新たな再生可能エネルギー源を活用し、災害時には地域内で自立的にエネルギー供給できる分散型エネルギーインフラ整備の事業検討を行う。</li> <li>・平成25年度、平成26年度に「分散型エネルギーインフラ」プロジェクト導入可能性調査事業(総務省)に採択され、調査を実施した。</li> </ul>	

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容	
33	環境にやさしい乗り物の普及促進	電気自動車の普及促進	EVアイランドあわじ推進事業	県、淡路島くにうみ協会	全島	電気自動車(EV)導入補助と充電器設置を併せて推進することにより、全県に先駆けたEV導入モデル地域として「EVアイランドあわじ」の推進を図る。 ・電気自動車等導入補助【継続】 [H24年度実績]300千円×40台 対象 島内事業者 [H25年度実績]300千円×54台 250千円×7台 対象 島内事業者、島内在住個人 [H26年度実績]300千円×82台 対象 島内事業者、島内在住個人 700千円×3台 対象 島内タクシー、レンタカー、教習所事業者 [H27年度予定]700千円×20台 対象 島内タクシー・レンタカー、教習所、宅配事業者 ・EVアイランドあわじ普及啓発事業【継続】 推進協議会の運営 EVアイランドあわじフェスタの開催 ・次世代自動車重電インフラ整備事業【継続】 淡路島内県立集客施設等に設置の急速充電器の維持管理 ・充電器設置補助事業 [H25年度実績]無し [H26年度実績]500千円×1基	
34		電気自動車の普及促進	公用車のEV化	県	洲本市	・電気自動車の普及を促進するため、洲本総合庁舎の公用車に「あわじ環境未来島構想」啓発のラッピングを施した電気自動車1台を導入。	
35		電気自動車の普及促進	公共施設でのEV率先導入		洲本市	洲本市	・公共施設における率先的なEV導入の一環として、公用車の更新に当たり、EVの積極的な導入を図る。 ・H24年度は、高田屋嘉兵衛公園(ウェルネスパーク五色)で使用する公用車の更新に当たり、EVを1台導入。
36		あわじ環境未来島電気自動車導入事業		南あわじ市	南あわじ市	・あわじ環境未来島構想の実現に向けて、脱化石燃料、二酸化炭素排出削減に資する電気自動車の導入を加速化するため、公用車1台を電気自動車に買い換える。 [H24年度実績]3,046千円	
37	エネルギーの持続 「あわじ環境未来島」島民率先行動の推進	電動コミュニティバスの運行			淡陽自動車教習所、ツネインホールディングス㈱、国際航空㈱、県、市他	全島	・淡路地域では、一層の人口減少に伴いますます分散居住が進み、さらに自動車依存が進む可能性が高い。一方で、超高齢化により自動車の運転が困難な住民が増加すると想定され、便数減少傾向にある既存バス路線に代わる住民の足の確保の必要性が高まっている。 ・このため、持続可能なコミュニティバスの運行に向けて、維持コストの低減化とCO2の削減につながる車両の電動化と運行実証を実施する。
38		あわじ全島ゴミゼロ作戦			「環境立島淡路」島民会議、県、島内3市他	全島	・環境立島淡路の実現のため、7月と11月を「淡路環境美化月間」と定め、「淡路全島一斉清掃の日」などの清掃活動をはじめとする島民主体の活動をより一層推進。 ・分別・リサイクルなどによるごみの減量化や、漂着ごみ問題に対する住民の環境意識向上を図る取組を推進。 ・率先的活動団体の取組支援 ・「淡路環境美化月間」運動の推進 ・淡路島海岸漂着ごみ対策の推進 等
39		あわじ菜の花エコプロジェクトの推進(再掲)			「環境立島淡路」島民会議、県、島内3市他	全島	・資源循環型社会の構築に向けた取組である「あわじ菜の花エコプロジェクト」を島民運動として推進。 [取組例] ・菜の花油販売促進事業 ・菜の花種子配布事業 ・生産者支援事業 等 [H26年度実績] 菜の花種子配布240kg、栽培面積45ha
40		家庭の省エネ実践運動	うちエコ診断(再掲)		ひょうご環境創造協会、地球環境戦略研究機関、エナジーバンクジャパン㈱、スマートエナジー㈱、県他	全島	・家庭からのCO2排出量を見る化し、各家庭の生活スタイルに応じて、排出削減の効果的な対策を個別提案する「うちエコ診断」を展開。 ・H23年度からは、全県のモデルとして、淡路島において地元自治会・町内会と連携して地域ぐるみで実施。 ・診断の内容については、温暖化防止のほかに節電の観点も加え、充実を図る。 ※実績(H25 2地域18世帯、H26 2地域19世帯)
41		生活排水適正処理の推進			県、市	全島	・3市と連携し、生活排水適正処理推進協議会を設立し、生活排水の適正処理を積極的に推進する。情報の共有や対策の検討を行うとともに生活排水適正処理指導員を配置し、県民生活への指導啓発を行う。

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容
42	農と食の持続	農と食の人材育成 農と食の人材育成拠点の形成	チャレンジファーム	○ (株)パソナ農援隊、淡路市他	重点(野島)	・農業分野での起業を目指す人材を(株)パソナ農援隊が最長3年間契約社員として雇用し、淡路市野島地区の遊休農地をフィールドとして、事業計画の作成、栽培品目の選定、生産・販売方法の企画、栽培管理・収穫・出荷など、農業経営の実践を通じて育成する「パソナチャレンジファーム」事業を展開している。なお、当該事業の実施に当たっては、県・淡路市が協働して農地の斡旋及び農業技術の指導等を行っている。 ・平成20年から事業を開始しており、現在、1名の研修生が独立就農又は農業分野での起業に向けて研修を行っている。卒業生で独立就農を希望する17名のうち、8名が淡路島内で就農し、うち4名が認定就農者となっている。
43	農と食の持続	農と食の人材育成拠点の形成	「ここから村」事業への支援	○ 県((株)パソナグループに委託)	重点(野島)	・若年層の厳しい雇用情勢を踏まえ、新卒未就職者等を雇い入れ、地域の強みである農業を2次産業、3次産業に展開できる6次産業人材の育成に向けた実習研修を行い、魅力ある定住人材を創出する。 ・平成23年度は、「淡路島農業人材育成事業」として(株)パソナグループに委託し、同社が、167人を雇用し、農作業をしながら芸術活動を行う「半農半芸」の兼業スタイルの普及により若手農業人材の地域定着につなげる「ここから村」の取組として実施した。 ・平成24年度は、前年度の取組を発展させ、加工・流通などのビジネス面の研修を強化した「淡路島6次産業人材育成事業」として81人、平成25年度は、「淡路島観光・交流人材育成事業」として30人を同社が雇用した。
44		旧野島小学校施設用地利活用事業	○ (株)パソナふるさとインキュベーション、淡路市他	重点(野島)	・廃校した小学校を活用し、地域活性化のシンボルとしてあらたな観光、6次産業化のモデル施設として位置づけ、耕作放棄地の有効活用、雇用創造、生産から加工、販売流通という6次産業モデルを確立する。 ・廃校となっていた旧淡路市立野島小学校施設について、(株)パソナグループが淡路市から譲渡を受け、H24年8月に「のじまスコーラ」をオープンした。	
45		健康・癒しの里づくり	クラインガルテン整備	○ (株)パソナグループ	淡路市	・都市住民が農業体験を通じて心の健康を回復する滞在型市民農園(クラインガルテン)について、再生可能エネルギーの活用も視野に入れた「エコ・クラインガルテン」事業の実施に向けた検討を進めている。
46		淡路島農の担い手育成プロジェクト	○ 県	全島	・認定農業者や集落営農組織等の効率的かつ安定的な経営体の育成、農業後継者の就業促進及び新たに農外からの意欲ある新規就農者(新規参入者)の受け入れを促進。 [H26年度実績] ・経営能力に優れた認定農業者(個別経営体)の育成 ・地域特性を生かした淡路島型集落営農組織(組織経営体)育成:2経営体を育成 ・全国農業担い手サミットinひょうご淡路地域交流会の開催 [H27年度予定] ・地域特性を生かした淡路島型集落営農組織(組織経営体)育成 ・認定農業者等の育成確保及び若手経営者の育成 ・淡路島型交流農業の推進	
47		がんばる淡路島農業人支援事業	○ 県	全島	・新規就農希望者へ、地域での援農活動等を通じ、農業技術習得や独立への基盤作りを支援するため、南あわじ市の団体へ事業委託する。 ・新規就農者が中古施設の修繕等を行うために必要な経費を補助する。	
48	ふるさと淡路島に帰って農業をしよう(Uターン就農)推進事業	○ 県(ふるさと淡路島に帰って農業をしよう実行委員会)	全島	・島外に出ている農家子弟のUターン就農を促す取組みを推進 親への意向調査(後継者の有無等)、講座の開催、Uターン就農推進冊子の作成、経営継承悩み相談室の設置等		
49	農を主軸とした地域再生の担い手を育成する大学学部との連携	吉備国際大学南あわじ志知キャンパス地域創成農学部との連携	学校法人順正学園、南あわじ市、県、地域農漁業団体他	重点(志知)	・県立高校の廃校跡地を活用し、農を主軸とした地域再生を目指し、環境・福祉を融合させた領域の人材育成を行う大学学部を誘致し、施設改修整備等を実施。H25年4月開校。	
50	あわじ島まるごと食の拠点施設の整備	○ 地域農漁業団体、南あわじ市、県他	重点(志知)	・地域が誇る農水産品の魅力を発信すると共に、ツーリズムと融合した6次産業化による付加価値の向上に取り組む拠点として、あわじ島まるごと食の拠点施設を整備。 [H24年度実績]13,470千円 ・マスタープラン作成、検討委員会開催等 [H25年度実績]880,169千円 ・測量調査、実施設計、整備工事、検討委員会開催、生産拡大支援等 [H26年度実績]145,933千円 ・1期整備工事が完成し、H27.3月に直売所・レストランを先行オープン等 [H27年度予定]46,130千円 ・2期工事調査設計等		
51	食の拠点施設活用推進事業	○ 南あわじ市	全島	・南あわじ市に整備された「あわじ島まるごと食の拠点施設」直売所「美菜恋来屋」において、農産物等の品揃えを安定させるための新規作物の導入推進、淡路島産農畜水産物の消費拡大を図るためのPRイベント等の実施を支援。		

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容
52	漁船の電動化・ハイブリッド化による漁業のグリーン化	電動漁船等地球環境保全型漁船の技術開発事業	○	(社)海洋水産システム協会、アイティオー㈱、五色町漁協、洲本市	重点(五色)	・平成24年度に全国初の取組となるフル電動船内外機船(ドライブ船)1隻を五色町漁協に配置し、同漁協管内をフィールドに航行実証実験を実施した。 ・平成25年度以降は、上記ドライブ船を活用して環境にやさしい漁業のあり方について検討を進める。
53		プラグイン・ハイブリッド船の開発	○	沼島漁協、古野電気㈱、関西電力㈱、大阪市立大学、南あわじ市、県	重点(沼島)	・南あわじ市沼島における「農漁村型スマートコミュニティづくり」の一環として、大阪市立大学、古野電気㈱、県立工業技術センター等により、モーターとエンジンを組み合わせた定点航行システムを組み入れた「ハイブリッド漁船」の開発に取り組む。
54	農と食の持続 食のブランド「淡路島」の推進	食のブランド「淡路島」推進事業		食のブランド「淡路島」推進協議会	全島	[H26主な実績] ・淡路島産食材こだわり宣言店制度の創設・実施 ・首都圏での全国規模の見本市等への出展・PR ・食のブランド淡路島フェアin神戸の開催 ・商談会の開催 ・食のブランド「淡路島」オータムメッセ2014の開催 等 [H27主な予定] ・淡路島産食材こだわり宣言店の拡充 ・首都圏での全国規模の見本市等への出展・PR等 ・食のブランド淡路島フェアin神戸の開催 ・商談会の開催 ・食のブランド「淡路島」オータムメッセ2015の開催 等
55		食のブランド「淡路島」推進事業		洲本市	洲本市	・兵庫県で取り組む“食のブランド「淡路島」”の推進に参画(1,200千円) ・地域食材のPRの充実、旬を楽しむ運動の推進(0千円) ・野生鳥獣の有効活用(6次化・特産化)の実証(0千円)
56		食のブランド「淡路島」推進事業		南あわじ市	南あわじ市	[H24年度実績]10,925千円 ・兵庫県の取組への拠出 ・農業学生研修事業 ・特産品販売促進事業(大阪、西宮等での特産品フェア) ・野菜産地振興事業(玉葱種子補助、堆肥流通補助、バイオ炭化物利用促進他) ・就農希望者農業体験 [H25年度実績]9,075千円 ・兵庫県の取組への拠出 ・農業学生研修事業 ・特産品販売促進事業(大阪、西宮等での特産品フェア) ・野菜産地振興事業(玉葱種子補助、堆肥流通補助、バイオ炭化物利用促進他) ・就農希望者農業体験 [H26年度実績]11,337千円 ・兵庫県の取組への拠出 ・農業学生研修事業 ・特産品販売促進事業(大阪、西宮等での特産品フェア) ・野菜産地振興事業(玉葱種子補助、堆肥流通補助、バイオ炭化物利用促進他) ・就農希望者農業体験 [H27年度予定]11,047千円 ・兵庫県の取組への拠出 ・農業学生研修事業 ・特産品販売促進事業(大阪、西宮等での特産品フェア) ・野菜産地振興事業(玉葱種子補助、堆肥流通補助、バイオ炭化物利用促進他) ・就農希望者農業体験
57		淡路島の野菜産地向上プロジェクト		県	全島	・淡路島の野菜主要5品目(たまねぎ、レタス、はくさい、キャベツ、トマト)等の野菜の生産面積を拡大するために、機械化体系の推進と品質向上への取組みを支援。 ・1地区(JAあわじ島)たまねぎ収穫コンテナ用フォークリフト等の導入補助 ・1地区(JA淡路日の出)野菜苗移植機、たまねぎピッカー等の導入補助 ・1地区(JA淡路日の出)ピーマン栽培ほ場への日射制御型自動かん水装置等の導入補助
58		淡路島の生乳生産量4万トン維持対策の推進		県	全島	・国際化に対抗出来る淡路島産牛乳の地域ブランドの維持向上を図るため、年々の暑熱対策を推進し、生乳生産量の減少を食い止める。 ・搾乳牛の夏バテ解消のための送風機、飲水施設等の整備補助 ・乳質改善のため、ミルカー、バルククーラー等搾乳機器機能向上補助 淡路島酪農農業協同組合等3団体(3地区) ・淡路島生乳パックへの県民届広報の掲載
59	淡路一水産の島再生プロジェクトの推進		県	全島	・水産資源の維持・増大と地元水産物消費拡大のため、豊かな海の再生や水産物販売強化に取り組む。 [H26年度実績] ・海底耕耘、海底ゴミの回収、かいほり等の実施を支援 ・新規養殖対象種としてアサリの垂下養殖導入のための養殖試験及び天然採苗試験を支援 ・淡路産水産物のブランド化を図るため、ハモ及びサワラのPRポスターを作成し、JR京阪神の駅広告やイオンの地魚販売時に掲示しPRを実施 [H27年度予定] ・漁場環境の改善や水産資源の回復のため、漁業者等が自ら行う取組みに対する支援 ・淡路島産水産物のPR及び水産物販売イベント等への支援	

番号	取組区分・概要	特区	取組主体	実施場所	事業内容
60	淡路島いちじく作付面積倍増作戦	県		全島	産地拡大を図るとともに、消費者への認知度向上、新商品開発によるブランド力強化に取り組む。 ・販路拡大:市場関係者との情報交換会の開催 ・新需要創造:いちじくを使った新メニュー、加工品等の開発
61	淡路島淡路島農産物等加工支援事業の推進	県	農林漁業者等3戸以上で組織する農林水産物加工グループ等	全島	・6次産業化に取り組む農林漁業者の育成。 ・加工施設の新設又は既存の施設を加工施設へ改良する場合に、農林水産物等の加工に必要な仕様及び機器等の整備への支援。 ・農林水産物を用いた商品の開発・改良への支援。
62	食の観光立国教育事業	淡路市		淡路市	・観光立島・淡路市にふさわしい人材の育成を行う。 ・将来の観光を担う子どもたちを育てるため、食による観光教育を学校及び関連機関と連携して実施する。
63	「食の観光大使程さん」おすみつき御食国みつけた事業	淡路市		淡路市	・淡路市の食の魅力を市内、市外の人たちに知ってもらうために、淡路島の特産品を買ったり、食べたりできる店をビジュアル化する。 ・淡路島の食材を使った一品を提供する店を募集し、淡路市の食の観光大使である程一彦による「みけつくに認定」を行う。また、同時に程氏によってメニューに対する助言を行っていただく。加えて、「よしもと」の情報発信システムを活用した同事業のPRを図る。
64	淡路島ええもん、うまいもんフェア事業補助金	淡路市		淡路市	・淡路島ええもん・うまいもんフェアを淡路市商工会事業として実施。 ・関係団体との連携や異業種交流により新たな事業展開の機会を創出、商工業者の活力回復や複数事業所の協力による商品開発につなげる。 ・淡路島の特産品が集まる場の提供を通じ、島外からの集客、地元住民への地元商品の周知を行う。 ・出店者へは自社商品の強み・弱みを分析する機会を、製造業者へは消費者と直接接する機会を提供することにより、今後の商品開発を促進。
65	食のブランド「淡路島」の推進	県		全島	・消費者や市場に信頼、評価され、競争力のある淡路島の花き産地づくりの一層の推進のため、産地一丸となって「淡路島の花」ブランド確立を進めるなど、生産・流通・販売を一体的に捉えた「淡路島の花」のブランド戦略を推進。
66	離島漁業再生支援交付金		沼島漁業集落	南あわじ市 沼島	・離島において、種苗放流、周辺海域の清掃、産卵育成場の整備、漁獲物の販売促進など、漁業の活性化を目指した取組みを行う離島の漁業集落に対して、交付金による支援を実施。 〔H26年度実績〕 15,640千円*2/3≒10,426千円 〔H27年度予定〕 13,872千円*2/3≒9,248千円
67	離島漁業再生支援交付金			南あわじ市 沼島	・離島において、種苗放流、周辺海域の清掃、産卵育成場の整備、漁獲物の販売促進など、漁業の活性化を目指した取組みを行う離島の漁業集落に対して、交付金による支援を実施。 〔H24年度実績〕 15,640千円*1/3≒5,213千円 〔H25年度実績〕 15,640千円*1/3≒5,213千円 〔H26年度実績〕 15,640千円*1/3≒5,213千円 〔H27年度予定〕 13,872千円*1/3≒4,624千円
68	自然環境の維持・保全 イノシシ被害対策の推進	県		全島	・集落ぐるみのイノシシ対策の実施 鳥獣被害防止対策協議会が防除・駆除指針に基づき集落単位の被害対策実施計画を策定し、集落ぐるみによる実施体制の整備を支援する。 ・イノシシ一斉捕獲推進事業の推進 生息区域の拡大防止効果等を高めるため、鳥獣被害防止対策協議会が取り組む「イノシシの繁殖期一斉駆除」を支援する。 ・イノシシ「一網打尽」作戦の実施:電気止めさし器の普及支援 檻等で捕獲した大型獣を安全に殺処分できる「電気止めさし器」の普及を支援し、農家自身(わな免許)による集落ぐるみの捕獲を推進する。
69	生物多様性の島淡路の推進	県		全島	・淡路島の生物多様性の保全や再生を島内で推進し、人と多様な生物が共生し、自然が豊かに調和する生物多様性の島の実現を目指す。
70	ため池交流保全の全島展開	県		全島	・農業者と漁業者によるかいぼりの取組みを進めるため池・里海交流保全事業(第2期)の実施 (H26年度実績 かいぼり10箇所) ・次世代の子供や都市の人たちへため池の役割や魅力を伝え、ため池への理解と維持管理の協力を進める。(H26年度実績 ため池教室3回、クリーンキャンペーン1回)

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容	
71	暮らしの持続 高齢者にやさしい持続交通システムの構築	デマンド交通試験運行事業		洲本市	洲本市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来から実施してきた路線バスへの運行補助を引き続き実施するとともに、住民が主体となって持続可能となる地域公共交通としてのデマンド交通試験運行を実施。</li> <li>・試験運行では、利用データの収集を目的とし、その結果を踏まえて、今後の方針を検討。</li> <li>・将来的には利用者の利便性を高めるとともに、環境にやさしい電気自動車(EV)の導入も検討する。</li> <li>[H24年度実績]</li> <li>・募集の結果、1団体から申請があるも、法的な制約により、試験運行不可。</li> <li>[H25年度実績]</li> <li>・市内の交通不便地域(中川原地区)において、デマンド方式(一部区域運行)による試験運行を実施。</li> <li>・募集期間は、6月3日(月)～6月28日(金)まで。</li> </ul>	
72		デマンド交通実証実験		淡路市	淡路市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス路線の廃止等により生じた公共交通空白地域(山田地区)において、地域の実情と住民の移動ニーズに合う新たな交通システムとしてデマンド方式による運航を実施する。</li> </ul>	
73		守り、育てる地域公共交通		県	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>県、島内3市、バス事業者等で構成する「淡路地域公共交通勉強会」を活用し、島内の高速バス、路線バス、コミバス、海上交通等の地域交通を守り、育てる方策を検証。</li> <li>高速バス、路線バス、コミバス、海上交通の時刻表網羅し、乗り換え情報等を分かり易くし利便性の向上に繋げるため作成した公共交通情報冊子「あわじ足ナビ」の効果的な活用に向けた検討を行う。</li> </ul>	
74	ICTを活用した島づくり	淡路ICTスマートアイランドプロジェクト		(株)パソナふるさとインキュベーション、(株)パソナテック、(株)パソナロジコム、淡路市	淡路市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(情報通信技術)を活用した各種サービスの提供を通じて住民の生活を便利で豊かなものにしていくため、平成25年度に「ICT街づくり推進事業(総務省)」を活用して、実証実験を展開した。</li> <li>・今後は、実証実験の成果を生かして、防災、交通、医療、エネルギーなどの課題を解決するための取組を展開する。</li> </ul>	
75	暮らしの持続 健康長寿の島づくり	7つのセラピーによる健康の島づくり		住民と共に創るセラピーアイランド 日本健康・環境セラピー学会	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境や緑を活用した健康増進に寄与する活動に関心を持つ市民、自然や健康に関連した企業・行政にかかわる人々、医療や教育の分野で働く人々、健康・環境・自然をテーマに実践・教育・研究を行う専門家らによる発表と交流の場を提供し、自然の恵みと私たちの健康の関係を科学的にとらえ、その成果を淡路島から子供、大人、高齢者にいたるすべての人々に伝えていくことを目的とする。</li> <li>平成26年8月10日第二回日本健康環境セラピー学会創立記念を淡路夢舞台国際会議場で、また11月24日、第一回淡路島四季音楽セラピーを関西看護医療大学で、27年3月28日淡路花博2015花みどりフェア「自然環境が奏でる癒しと健康のおもてなし―癒しのセラピー体験―」を淡路夢舞台国際会議場で実施した。この三回の参加総人数は356名。健康志向が到来している今こそ、住民の健康を守り向上させるために、今後も、四季折々のセラピーを住民の皆様に紹介し、体験する機会を持ち続ける。</li> </ul>	
76		健康回復の拠点づくり	健康回復・健康づくりの拠点整備事業		民間事業者、淡路市他	重点(夢舞台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路花博跡地の一部に地域医療の拠点となる病院を整備し、風光明媚な医療環境を提供する。H23年度で病院用地の購入、インフラ設計。H24～工事開始、H26.4.1開院。</li> <li>[H24年度実績]104百万円(病院への建設補助)</li> <li>[H25年度実績]646百万円(病院への建設補助)</li> <li>[H26年度予定] 0</li> </ul>
77		住民の健康と安心を支える基盤整備	洲本市中心市街地における健康福祉ゾーンの整備検討		民間事業者、洲本市社会福祉協議会、洲本市、県他	重点(洲本市中心市街地)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洲本市中心市街地において、健康福祉ゾーンの整備を検討し、人口減少・高齢化が進む中でも安心して暮らし続けられる地域づくりを目指す。</li> </ul>
78		「ソーシャルファーム」の整備			NPO法人、南あわじ市	重点(志知)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南あわじ市活性化委員会の活動の一環として障害者等の新たな雇用・就業の場となるソーシャルファームのモデル整備を行う。実施主体であるNPOがH23年11月に発足。自主活動を展開。</li> </ul>
79		いきいき百歳体操の全島展開			市、県、介護保険事業者	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な介護予防事業を推進するため各市が地域拠点展開している「いきいき百歳体操」を支援するとともに、元気高齢者が虚弱老人を支える住民主体の地域づくりを支援する。</li> </ul>
80	地域支援ネットワークづくり			県立淡路医療センター、県、市、かかりつけ医、介護保険事業者他	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症・難病患者になっても地域で質の高い生活を送れるよう、認知症疾患医療センター(県立淡路医療センター)や、各市地域包括支援センター、介護保険事業者、かかりつけ医などが連携し、地域包括ケア体制を整備する。</li> </ul>	
81	精神障害者が地域で当たり前暮らしをまちづくり			県、市	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「入院医療中心から地域生活中心へ」の移行を図るため、ピアサポーターが精神障害者へのアウトリーチ支援を行ったり、「仲間づくり」や「居場所づくり」の支援を行い、精神障害者が当たり前で生活できる地域・まちづくりを目指す。</li> </ul>	

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容
82	地域資源を生かした小規模集落の活性化			各地区、大学、NPO法人、淡路市、県	重点(長沢・生田・五斗長)	<p>・あわじ環境未来島構想推進事業「重点地区推進事業」(0.3百万円) 長沢、生田、五斗長の3地区を一体の地域としてとらえ、小規模な集落が連携してそれぞれの個性や想像力を糾合し、過疎に悩む中山間地域の活性化に向けた先駆的モデルとして取り組む。</p> <p>・地域再生大作戦(15百万円) 生田・五斗長地区の魅力向上を図るため、各地域の自主的、主体的な賑わい創造や活性化に取り組んでいる。</p> <p>【H26年度実績】 －淡路市長沢：ふるさと自立計画推進モデル事業 －淡路市生田：地域再生拠点等プロジェクト支援事業 －淡路市五斗長：地域再生拠点等プロジェクト支援事業</p> <p>【H27年度予定】 －淡路市生田：地域再生拠点等プロジェクト支援事業 －淡路市五斗長：地域再生拠点等プロジェクト支援事業 ・五斗長垣内遺跡史跡整備事業(37.5百万円) 五斗長地区において、国の史跡として指定を受けた五斗長垣内遺跡の整備を実施し、地域と連携して文化財の有効活用を図る。</p>
83	島まるごとミュージアム化の推進	淡路島景観づくり運動の推進		県	全島	<p>淡路島の景観を守り、未来に引き継ぐため、「守り育てる」「調和させる」「活かす」の三つ視点から「淡路島の景観づくり運動」を推進していく。</p> <p>○H24年度に選定した「淡路島百景」のPR・活用(「淡路島百景ガイド」、「俳句で詠む淡路島百景」の無料配布) ○「淡路島景観づくりガイド」による啓発 ○「景観緑花市民講座」の開催 ○「淡路島景観づくり交流フォーラム」の開催</p>
84	島まるごとミュージアム化の推進	「ウオーキングミュージアム」の整備		NPO法人淡路島アートセンター、淡路市、地域住民、地域団体、県他	重点(長沢・生田・五斗長)	<p>・構想に掲げる「島まるごとミュージアム化」の実現に向け、古道復活プロジェクトのモデルとして平成23年度～24年度に地域づくり活動支援モデル事業、平成25年度にはフロンティア事業を活用し、「五斗長ウオーキングミュージアム事業」(五斗長地区周辺の古道を復活させ、そこに樹木等を芸術的に加工して配置すること等により、交流人口の増加を図る事業)を実施した。また、島内各地で同様の事業展開を検討し、淡路島全体での事業実施を目指す。</p> <p>【H23年度実績】地域住民等と協働してルートの選定及び歴史的価値の検証等を行い、アーティストと連携してフットパスの計画を策定。 【H24年度実績】地域住民とアーティストが連携し、計画に基づいたフットパスを制作。 【H25年度実績】地域住民とアーティストが連携し、新たな作品を設置。 【H26年度実績】地域住民とアーティストが連携し、新たな作品を設置。 【H27年度予定】新たな作品設置や古道の復活を地域住民と共に行い、情報発信も継続して実施することにより、更なる交流人口の増加を図る。</p>
85	地域資源を生かしたしごとづくり	淡路地域雇用創造推進事業(淡路はたらくカタチ研究島)		淡路地域雇用創造推進協議会	全島	<p>地域の特性を活かした重点事業分野を設定のうえ、地域の創意工夫による以下の雇用対策事業を策定、国の委託を受けて実施する。</p> <p>①雇用拡大メニュー(事業主向け)：事業の拡大、新事業の展開等を支援することにより、地域の雇用機会の拡大を図る。 ②人材育成メニュー(求職者向け)：地域で求められている人材を育成することにより、地域の雇用に繋げる。 ③就職促進メニュー：上記①、②のメニューを利用した求職者、事業主等を対象にマッチングを行う。 ④雇用創出実践メニュー：求職者を雇用し、観光ツアーや地域ブランド商品の開発、販路拡大等を行うことにより、波及的な雇用機会の増大を図る(H25.12～)。</p> <p>【H24年度実績】 事業者向け6研究会や求職者向け11研究会等を実施し、参加事業者34社、受講者349名、新規創業・雇用創出54名。 【H25年度実績】 事業者向け6研究会や求職者向け15研究会等を実施し、参加事業者28社、受講者255名、新規創業・雇用創出34名。 【H26年度実績】 事業者向け6セミナーや求職者向け12研修会等を実施。参加事業者48社、受講者309名、ツアー2件、商品4件開発。新規創業・雇用創出48名(中間集計見込)</p>
86	暮らしの持続	スポーツアイランド淡路の展開		県、島内3市、淡路島くうみ協会	全島	<p>・民間による淡路島一周サイクリングイベントの開催支援など、サイクリストを受け入れる取組を進め、「サイクリングアイランドあわじ」のイメージを定着させ、都市住民との交流の拡大と滞在型観光の需要の喚起を図り、地域の活性化に資する。</p> <p>・地元での開催体制整備、交通安全対策、地元歓迎行事等の実施 ・開催日：平成27年10月25日(日) 【H26年度実績】参加者1,860人</p>
87		洲本川 住民とつくるふれあい川づくり		県	洲本市	平成16年の水害からの復興記念および市民スポーツとしてのボート競技の普及啓発のため、洲本川河口部に「洲本川レガッタ」を開催する。
88		「卓球・淡路」復活作戦		県	全島	かつて卓球が盛んであった淡路で、子供達にスポーツの選択肢を増やし、世代を超えた交流により地域を活性化するため、ジュニア・シニア大会の開催や、子供達のための練習拠点の形成を目指す地域団体を支援。

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容
89	国内外から人が集う、活力ある島づくり	淡路マンガ・アニメアイランドプロジェクト		(株)パソナグループ	淡路市	世界的に人気の高い日本のマンガ、アニメ、キャラクターやゲームなど、ポップカルチャーと呼ばれるコンテンツを集めた大型複合体験型の漫画アニメ美術館等を整備し、国内外からの観光客を誘致する。今後の展開を見据え淡路花博2015花みどりフェアにて「妖怪ウォッチ」をテーマにしたアトラクションを実施。アニメ分野の展望の足掛かりとする。
90	総合的推進 あわじ環境未来島構想の企画調整	あわじ環境未来島構想推進協議会の設置運営		県、島内3市、淡路島くにうみ協会 他	全島	・住民、地域団体、NPO、企業、行政等が幅広く参画する協議会を設置し、多様な主体の協働で構想を推進。
91		あわじ環境未来島構想の事業化推進		県、淡路島くにうみ協会	全島	・「エネルギー自立と暮らしの安心・低炭素化マネジメントシステム」の具体化に向けた基本構想の策定や、再生可能エネルギーの活用に係る海外先進地との連携及び情報収集。
92		あわじ環境未来島セミナーの実施		県、淡路島くにうみ協会	全島	・「あわじ環境未来島構想」を推進するため、島内親子を対象に副読本作成スタッフ(教員)と一緒に構想の取組が進む現場を体験・見学するセミナーを開催。[H26年度実績] 3回開催
93		あわじ環境未来島構想の推進に係る情報発信		県、淡路島くにうみ協会	全島	・「あわじ環境未来島構想」を推進するため、構想の全体像や魅力を分かりやすく発信できるホームページを運営。
94		ポスター・作文コンクールの実施		県、淡路島くにうみ協会	全島	・「あわじ環境未来島構想」を推進するため、小学生を対象にポスターを募集し構想に対する関心を高めるとともに、これまでよりも普及・啓発の対象者の裾野を広げ島民意識の醸成を図る。 ・「あわじ環境未来島構想」を推進するため、小学生を対象として未来島構想をテーマに副読本を参考図書とした作文を募集し、構想に対する関心を高めるとともに、これまでよりも普及・啓発の対象者の裾野を広げ島民意識の醸成を図る。

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容
95	あわじ環境未来島構想の企画調整	あわじ環境未来島副読本活用事業		県、淡路島くうみ協会	全島	・平成25年度に作成した「あわじ環境未来島副読本-みらい-」を、淡路島内の小学生(5年生)に配付し、総合学習等の授業で活用したり、課題図書とすることで、構想への理解を深め、次代を担う子どもの達が、自分たちの住む淡路島の将来を考える機会をつくる。
96	総合的推進 地域住民等による環境未来島づくり活動の促進	あわじ環境未来島構想推進事業 重点地区推進事業		県	重点(各地)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あわじ環境未来島構想」に掲げる重点地区において、エネルギーと農・食の自立を基盤に暮らしが持続する地域社会の実現を目指す。</li> <li>・地域社会の問題解決につながる、住民組織・NPO・企業・行政等の協働により行われる先駆的・モデル的な取組を支援。</li> </ul> [H23年度実績]補助額:1市あたり上限5,000千円 3市:14,993千円 [H24年度実績]補助額:1市あたり上限10,000千円 3市:29,980千円 [H25年度実績]補助額:1市あたり上限10,000千円 3市:28,644千円 [H26年度実績] 補助額:1市あたり上限4,000千円 洲本市五色町:域学連携活動等拠点整備事業(2,631千円) 洲本市中心市街地:洲本市中心市街地における暮らしやすいまちづくり推進事業(12千円) 南あわじ市沼島:沼島創成プロジェクト～漁業・観光産業の活性と定住の促進～(3,000千円) 南あわじ市志知:大学を中心とした「農と暮らしの持続」推進事業(1,000千円) 淡路市長沢・生田・五斗長:地域資源を活かした3地区連携事業(300千円) 淡路市長沢:特産品を活かした拠点整備事業(900千円) 淡路市生田:人と自然が共生できる環境整備事業(900千円) 淡路市五斗長:地域資源を活用した地域活性化、交流人口拡大事業(900千円) 淡路市野島:耕作放棄地を活用した地産地消及び交流促進モデルづくり(1,000千円) [H27年度予定] 補助額:1市あたり上限4,000千円
97		あわじ環境未来島構想推進事業 重点地区推進事業		洲本市	重点(各地)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あわじ環境未来島構想の実現に向けて、住民、NPO、企業、大学、行政等の協働で先駆的・モデル的な取組を行う地区を重点地区と位置づけ、その活動を支援。</li> </ul> [H24年度実績] 洲本市五色町:農山漁村型スマートビレッジ構築検討事業(4,990千円) [H25年度実績] 洲本市五色町:農山漁村型スマートビレッジ拠点設置・活用事業(4,322千円) [H26年度実績] 洲本市五色町:域学連携活動等拠点整備推進事業(3,947千円) [H27年度予定] 洲本市五色町:域学連携活動等拠点整備推進事業(5,000千円)
98		あわじ環境未来島構想推進事業 重点地区推進事業		南あわじ市	重点(各地)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あわじ環境未来島構想の実現に向けて、住民、NPO、企業、大学、行政等の協働で先駆的・モデル的な取組を行う地区を重点地区と位置づけ、その活動を支援。</li> </ul> [H24年度実績] ・沼島地区:空古民家の改修拠点づくり他(3,000千円) ・志知地区:大学学部設置に伴う地域連携研究他(2,000千円) [H25年度実績] ・沼島地区:空古民家の改修拠点づくり他(5,000千円) ・志知地区:大学学部設置に伴う地域連携研究他(1,000千円) [H26年度実績] ・沼島地区:空古民家の改修拠点づくり他(1,500千円) ・志知地区:大学学部設置に伴う地域連携推進他(1,000千円) [H27年度予定] ・沼島地区:沼島総合観光案内所を拠点とした観光誘致強化事業他(1,500千円) ・志知地区:大学学部設置に伴う地域連携推進他(1,000千円)

番号	取組区分・概要	特区	取組主体	実施場所	事業内容
99	あわじ環境未来島構想推進事業 重点地区推進事業		淡路市	重点(各地)	<p>※地域再生拠点等プロジェクト支援事業</p> <p>[H24年度実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生田:水車公園周辺整備事業 12,050千円(県6,000千円、市3,000千円) (ホテルカフェの整備)</li> <li>・五斗長:五斗長垣内遺跡周辺整備活用事業 84,522千円(県42,250千円、市40,250千円) (五斗長垣内遺跡活用拠点施設の整備)</li> </ul> <p>[H25年度実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生田:生田活性化事業 1,110千円(県500千円、市250千円) (ホテルカフェのエアコン整備・排水工事、イベント開催、看板製作)</li> <li>・五斗長:五斗長垣内遺跡周辺整備活用事業 2,003千円(県1,000千円、市500千円) (活用拠点施設の備品購入、カフェ開設、PR活動)</li> </ul> <p>[H26年度実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生田:生田活性化事業 1,017千円</li> <li>・五斗長:五斗長垣内遺跡周辺整備活用事業 2,075千円</li> <li>・五斗長地区において、国の史跡として指定を受けた五斗長垣内遺跡の史跡整備事業を実施し、地域と連携し文化財の有効活用を図る。</li> <li>・長沢地区:廃校を利用した太陽光パネルの設置事業6,030千円</li> </ul> <p>[H27年度予定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五斗長:五斗長垣内遺跡周辺整備活用事業 37,500千円</li> <li>・五斗長地区において、国の史跡として指定を受けた五斗長垣内遺跡の史跡整備事業を実施し、地域と連携し文化財の有効活用を図る。</li> </ul> <p>[H25年度実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五斗長垣内遺跡史跡整備事業 11,165千円</li> </ul> <p>[H26年度実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五斗長垣内遺跡史跡整備事業 32,000千円</li> </ul> <p>[H26年度予定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五斗長垣内遺跡史跡整備事業 37,500千円</li> </ul>
100	総合的推進 地域住民等による環境未来島づくり活動の促進 あわじ環境未来島構想推進事業 重点分野推進事業		県	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あわじ環境未来島構想」に掲げる「エネルギーの持続」「農と食の持続」「暮らしの持続」を推進するため、地域社会の問題解決につながる取組として、住民組織・NPO・企業・行政等の協働により行われる先駆的・モデル的な取組を支援。</li> </ul> <p>[H26年度実績]</p> <p>補助額:1市あたり上限2,000千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洲本市域学連携推進協議会:グリーン&amp;グリーンツーリズム推進事業(888千円)</li> <li>・マチイナカ交流推進協議会:洲本へいらっしやいプロジェクト(993千円)</li> <li>・うず潮世界遺産登録学術調査事業推進協議会:うず潮世界遺産登録学術調査事業推進協議会(2,000千円)</li> <li>・NPO法人淡路島環境整備機構:温浴施設用多チップボイラーの試作開発事業(2,000千円)</li> </ul> <p>[H27年度予定]</p> <p>補助額:1市あたり上限2,000千円</p>
101	あわじ環境未来島構想推進事業 活動応援事業		県	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あわじ環境未来島構想」を推進するため、持続する地域社会の実現に向け、地域社会の問題解決につながる取組として、住民組織・NPO・企業・行政等の協働により行われる先駆的・モデル的な取組を支援。</li> </ul> <p>[H23年度実績]7件、5,590千円</p> <p>[H24年度実績]4件、3,000千円</p> <p>[H25年度実績]4件、3,000千円</p> <p>[H26年度実績]6件、3,000千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型風力発電研究会:耐久性を追求した小型風力発電機による照明機器の設計・設置(600千円)</li> <li>・安坂中原筋田主村起こしチャレンジャー:自生植物を生かした特産物作りによる村おこし活動(500千円)</li> <li>・上灘里山里海再生委員会:炭焼き窯建設などの体験イベントを通じた再生モデル事業(600千円)</li> <li>・淡路ソーシャルファーム:マラスファーム&amp;ちゅちゅファームによる母親同士のつながりによるソーシャルファーム(500千円)</li> <li>・山田ふるさと村づくり実行委員会:山田ふるさとふれあいまつり(500千円)</li> <li>・エネルギー自給島沼島活性化推進協議会:先端的エネルギーシステムを活かした地域の活性化事業(300千円)</li> </ul> <p>[H27年度予定]補助額:1団体あたり上限1,000千円</p>
102	グリーン&グリーン・ツーリズムによる地域活力創出モデル構築事業		洲本市	洲本市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路島の豊かな自然と生活文化、農漁業と食、再生可能エネルギー等を活用した新たな事業モデルの構築と、それを有機的に連携させたツーリズムにより、地域産業の創出・強靱化と、観光を通じた地域活性化を図るとともに、「あわじ環境未来島特区」の実現に寄与する。</li> <li>・平成25年「域学連携」地域活力創出モデル実証事業(総務省)の採択を受け、地域と大学等との連携による地域力の創造に資する人材育成と自立的な地域づくりに取り組む。</li> <li>・平成26年度以降も継続して「域学連携」に取り組む予定。</li> </ul>

番号	取組区分・概要		特区	取組主体	実施場所	事業内容
103	総合的 推進	海外との連携	海外との連携	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市	全島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の先進地域と連携を図り、様々なノウハウを学び、淡路島での取組に生かすとともに、淡路島で実践して得られた成果を他の地域に提供することを通じて広く国内外に貢献する。</li> <li>－再生可能エネルギー活用の先進国であるデンマークの離島との連携を図るため、平成23年6月に駐日デンマーク大使に淡路島を視察いただき、様々なアドバイスを得た。</li> <li>－平成24年2月 ポーンホルム副市長を招き、「幸せを実感できる持続可能な社会とは」をテーマに国際シンポジウムを開催した。</li> <li>－平成25年10月 調査交流団をデンマーク・ポーンホルム島に派遣し、再生可能エネルギーを活用した地域づくりに向けた今後の淡路島との交流に関する協議、先進事例の調査を行った。</li> <li>－平成26年4月 デンマーク・ポーンホルム島関係者が「あわじ環境未来島構想」のプロジェクトを視察され、各プロジェクトに対する評価や助言をいただいた。</li> <li>平成27年3月 ポーンホルム市長を招き、エネルギーの持続をテーマに「エネルギー自立島サミット」を開催した。</li> </ul>

番号	取組区分・概要	特区	取組主体	実施場所	事業内容
----	---------	----	------	------	------

【終了事業】

1	エネルギーの持続	地域資源を活用した再生可能エネルギー創出	家庭・事業所での太陽光発電の導入促進	津名地区エコ企業立地促進制度	県	淡路市	・津名地区埋立地(生穂、佐野、志筑)へ環境・グリーンエネルギー関連産業などの環境貢献型企業を中心とした企業立地を促進する企業誘致制度を導入。 【環境貢献型企業特別支援】 ー環境貢献型企業(環境に配慮した製品の製造やサービス提供をしている企業)について、分譲価格を20%割引。 【環境配慮型企業支援】 ー環境配慮の組み合わせにより分譲価格を最大50%割引。 【実績】 3件(平成22年度)	
2				太陽光発電システム整備補助事業	県、淡路島くにうみ協会	全島	・エネルギー自給率向上に向けて、地域の強みである豊富な日照量を生かした太陽光発電の導入を加速化するため、淡路島内の事業者及び地域づくり団体に太陽光発電システム整備を補助。 [H24年度実績]49件、59,353千円、379.6kW(補助上限額180万円、事業者又は地域づくり団体対象)	
3	農と食の持続	地域でのエネルギー創出を支える仕組みづくり	あわじ環境未来島エネルギー・環境ビジネス参入研究支援事業		県	全島	・あわじ環境未来島構想の3本柱の一つである「エネルギーの持続」におけるビジネスチャンスに対して、既存の企業だけでなく、新規の参入を促し、エネルギー、環境関連企業等を島内で育成。 ー研究会等の開催(講義、創業相談等) ※ビジネスチャンス例:太陽光発電装置等設置・販売事業、電気自動車整備事業 等 【実績】 8社が創業又は創業検討中	
4		地域資源を活用した再生可能エネルギー創出	家庭・事業所での太陽光発電の導入促進	公共施設等における自然エネルギーの活用	県	全島	・「エネルギーの持続」を目指し、道路、公園、ダム等での維持管理に使用する電力の太陽光等の再生可能エネルギーへの転換や省電力設備の導入を図るための検討設計を行う。	
5	農と食の持続	農と食の人材育成	食の拠点施設直売所運営円滑化支援事業			南あわじ市	全島	・南あわじ市に整備される「あわじ島まるごと食の拠点施設(仮称)」の直売所において、農産物等の品揃えを安定させるため、新規作物の導入推進、直売所間のネットワーク化や農産物等の融通システムの確立に向け、調査・検討を支援。
6			淡路島たまねぎ10万吨復活大作戦の推進			県	全島	・国内産(佐賀県産等)や海外産との差別化を図るため、甘くて柔らかい貯蔵性のある淡路島たまねぎの晩生品種の生産を拡大。 ・1地区(JAあわじ島) フォークリフト等の導入補助 ・1地区(JA淡路日の出)たまねぎ運搬車両等の導入補助
7			南あわじ灘のビワ20ha復活大作戦			県	南あわじ市	鳥獣被害の軽減や有望品種への改植を進め、産地の維持・復活を図る。 ・鳥獣害対策研修会の開催 ・モデルほ場の設置
8	暮らしの持続	高齢者にやさしい持続交通システムの構築	低炭素型地域交通システム導入実証事業		○	日産自動車、県、市、淡路島くにうみ協会 他	全島	・島内で二人乗り超小型電動車両を用いた低炭素型の新しい地域交通システムのモデル構築に取り組む実証事業を実施。 日 程 平成24年7月23日(月)～8月5日(日) 場 所 洲本市五色町鮎原神陽地区(7/23) 淡路市長沢・生田・五斗長地区(7/25～8/5) 実証車両 日産ニューモビリティコンセプト4台
9		地域資源を生かしたしごとづくり	あわじ環境未来島ビジネス(観光・ツーリズム、食業等)参入実践助成事業			県	全島	・あわじ環境未来島構想の3本柱である「エネルギーの持続」、「農と食の持続」、「暮らしの持続」等における新たなビジネスチャンスに対し、淡路島の地域資源を活かした、①エネルギー・環境関連事業、②農畜水産物の食業ビジネス、③観光・ツーリズム等に新たに参入しようとする中小企業者等の連携体(複数の個人又は企業)を支援するため、新商品・新サービスの開発や販路開拓経費の一部を助成。 助成率:助成対象経費の3分の2以内 助成限度額:30万円以内 【実績】 3件
10	スポーツアイランド淡路の展開	淡路サイクリストロードづくり			県	全島	・サイクリストに分かりやすい案内標識の整備等の自転車に優しい道路環境を整備し、ハード面でのサイクリストが訪れやすい環境整備を行う。(H24～25年度) ・サイクリスト視線の注意サイン47箇所を設置 ・サイクルスタンド等を設置したサイクルオアシスを4箇所整備	